

## 1. 庁舎エリアの基本的な考え方（案）

### エリアの課題

(1) 庁舎の老朽化等を背景に、市民等が利用しやすい拠点としての機能不足

(2) 都市イメージを先導し、新たな価値を発信する拠点としての機能不足

(3) エリア全体の防災性の不足と持続可能性への対応

(4) 隣接地や駅周辺での事業との接続・連携は道半ば（個別更新の途中）

### コンセプト（庁内 PT で検討） 及び 基本的な考え方

### みんなで描き、みんなでつなく このまちがキャンパスに

このまちをキャンパスにみたく、市民や事業者、団体、職員等がつながり仲間となって、未来の新しい門真を思い描き表現しながら、門真らしい新しい働き方や楽しみ方、変化が、次々と生まれていく

#### (1) 多様な利用を促す開かれた拠点

- 市民や事業者、市民団体等へのサポートが充実し、誰もがわかりやすく利用しやすいユニバーサルデザインに配慮された庁舎として整備します。
- 市民に開かれ、誰もが楽しめる様々なイベントやアクティビティ、門真らしいコンテンツが生まれる、市役所に用事がなくても行きたくなる場所をめざします。
- 利用・交流・賑わいを担う市民や企業、市民団体や活動等を育てていく、継続していける場所をめざします。

庁舎と広場の一体的な賑わい（富岡市役所）



低層部の開かれた賑わい空間（横浜市役所）

障がい者雇用・栄養士による食事提供（堺市庁舎食堂）

- <参考：PT で出されたアクティビティの例>**
- 「広場や庁舎、まわりも使いこなしコンテンツ DO」
- ・「門真運動会」「夜でも楽しい中町」「アウトドアリビング」「門真フィル」「門真大食堂（誰でもごはんが食べられる）」「門真フェス」「e-sports」「聖地かどま」・・・
- 「市民・企業・団体が一緒にやる・マッチング」
- ・ガンガン外に出る、市民や企業とコラボレーションする
  - ・イベントや公民連携事業をゼロから一緒に企画する、お互いに協力する（実行委員会形式）

#### (2) 新たな働き方と公民連携

- 庁舎・広場が新たな働き方を実践する場となり、門真市の都市課題をクリエイティブに解決・発信していく場所をめざします。
- 市職員と市民、事業者、市民団体等がフラットにアイデアやニーズを持ち寄り、コラボレーションを実践していく場所をめざします。
- 民間事業者による事業実施や、管理運営など、創意工夫が発揮されやすい場をめざします。
- できるところから社会実験として実践し、改善するプロセスを取り入れます。



PT による市役所前駐車場での社会実験、ワークスペースの改善活動

- <参考：PT で出されたアクティビティの例>**
- 「ゆるふわ、でもクリエイティブ、な働き方」
- ・全庁共有の休憩タイムやスペースをつくる
  - ・立ち話、思いがけない出会いが生まれる場所を作る
- 「市民も職員もボーダーレス、まざりあう場所」
- ・肩書とか上下とか関係なく話をする
  - ・市民も職員もみんなランチをする、語らう場をつくる
  - ・庁舎にカフェやコンビニ、ラウンジをつくる

#### (3) 防災・持続可能性

- 防災拠点としての機能を発揮し、市民の安全・安心を守る庁舎・広場を整備・運用します。
- 総合体育館等周辺施設と一体となった災害対応機能を発揮する庁舎・広場を整備・運用します。
- 日常においても防災を意識した活動が実践できる庁舎・広場として活用していきます。
- 脱炭素、景観や LCC の低減など、将来を見据え持続可能性を備え、環境に配慮したエリアとします。



ZEB Ready 導入事例（高島市庁舎）

日常利用や地域の賑わいを創出する防災公園（豊島区）



- <参考：PT で出されたアクティビティの例>**
- 「広場や庁舎、まわりも使いこなしコンテンツ DO」
- ・「学びの場」「まちキャン（まちなかキャン・防災イベント）」

#### (4) 周辺との連携・波及

- 門真市駅（ものづくり・地域商業・リノベーション）/古川橋駅周辺（学び・コミュニティ・子ども）の特徴を活かしたまちづくりと連携したエリアをめざします。  
例：地域コミュニティや市民活動の集まる場  
多様性・包摂力のある場  
コラボが誘発される場 など
- 周りにも開かれ、隣接する高架下や周辺施設とも機能面で連携し、一体的でアクセスしやすい、ウォークアブルな環境を整えます



市役所隣接広場への民間賑わい施設の設置（仙台市）

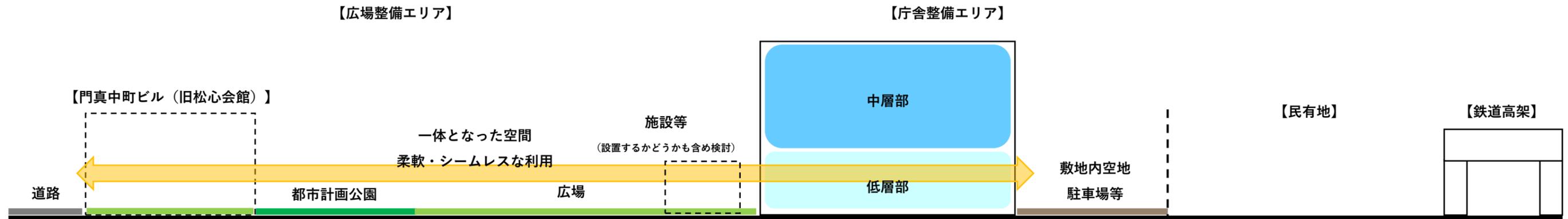


高架下の活用（洛西口～桂駅間プロジェクト TauT（トート）阪急洛西口）

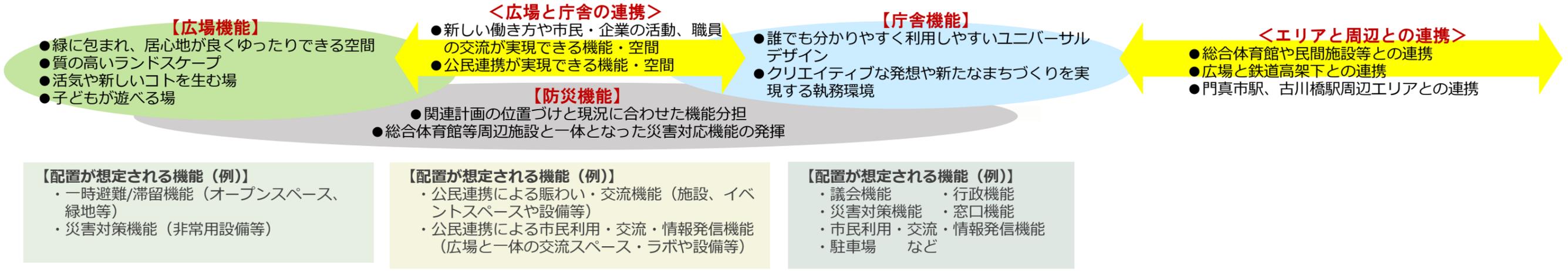
- <参考：PT で出されたアクティビティの例>**
- 「市民・企業・団体が一緒にやる・マッチング」
- ・隣接地や門真のほかのスポットとも一体感を持って、周りともコラボレーション、相乗効果

## 2. 庁舎エリアの整備検討事項（案）

庁舎エリアの模式図



機能構成・配置



検討事項

- **防災機能を有する広場としての検討**
  - ・防災機能を有する広場として、位置づけの整理と必要な機能等の設定
- **使い方に応じた広場として必要な機能・施設等の整理**
  - ・アクティビティに応じた、日常的な広場空間/イベント等の非日常的な空間等で必要となる施設等の検討
  - ・景観・ランドスケープ等の整備方針の検討
- **庁舎/広場の整備・運営のあり方の検討**
  - ・庁舎・広場において、整備・運営に至るプロセスはいかにあるべきか
    - 例：広場と庁舎の一体的な整備、開かれた場所として運営するための発注を含めたプロセスできる限り、運営者が整備などにも関与
- **公民連携のあり方、スキーム検討**
  - ・広場や庁舎において、どのような公民連携のあり方、スキームが考えられるか
  - ・どのような公民連携事業、民間のプレイヤーを創っていきけるか
- **公民の共創を誘発する機能**
  - ・アクティビティに応じて市民や企業、職員らが共創していくために必要となる機能の検討
    - 例：コラボレーション誘発の交流機能
    - 情報発信機能、公民館機能
- **庁舎と広場の連携を可能とする空間整備や維持管理・マネジメントのあり方**
  - ・庁舎と広場という性格・位置づけや管理形態が異なる中で連携できる空間整備や維持管理・マネジメントのあり方
- **新たな働き方・クリエイティブな働き方を実現できる機能・室構成・配置**
  - ・職員の新しい働き方を実現する機能構成・配置（一部実践中）
- **庁舎に求める基本的な機能・性能水準の検討**
  - ・建物（構造形式ほか）や空地・駐車場などの設定
  - ・窓口・執務空間・市民交流・議会・倉庫等の配置、規模の設定
  - ・利用される市民の方々に使いやすい構成・サービス配置や、多様な方々への配慮（ユニバーサルデザイン）など
  - ・DX等に対応した庁内システム等の検討
- **防災機能の確保や環境配慮の検討**
  - ・災害時の拠点として機能確保が可能となる施設・設備等の導入やBCP計画との連携など
  - ・脱炭素時代にふさわしい施設・設備など
- **段階的な整備のプロセス**
  - ・庁舎機能を継続させたままの整備プロセスの検討（仮移転など）、スケジュール等
- **隣接施設との連携**
  - ・隣接公共施設（総合体育館ほか）との機能や空間での連携
    - 例：防災等
    - 歩行者動線確保
  - ・エリアに近接する高架下との連携
    - 例：高架下での活用と広場との連携
- **エリア周辺の環境改善等**
  - ・歩道の改善
- **周辺施設との連携、エリアマネジメント等**
  - ・門真市駅・古川橋駅との連携（都市再生整備計画への位置づけも考慮）